

岡山大学看護学生の小児実習宣言

小児病棟で実習を行う学生として 私達は以下に述べることを宣言します

1 私達は	子どもたちが希望する名前呼びます
2 私達は	いつも笑顔で子どもたちの目の高さでケアを行います
3 私達は	子どもたちとの約束を守ります
4 私達は	誕生日など子どもたちの記念日には気をつけます
5 私達は	子どもたちがいつも清潔で心地よい環境で過ごせるようにします
6 私達は	眠っている時に無理に起こしたり遊びを邪魔しないように、子どもたちの日常生活を可能な限り妨げないようにします
7 私達は	子どもたちがつらい時に、大声で泣いたり、叫んだり、いやだと言えるような環境をつくります
8 私達は	子どもの疑問に対して子どものわかる言葉で理解できるように説明を行います

電話相談に届く声

◆相談者の姿勢の二極化

徹底追及 ⇔ 遠慮・我慢

◆相談の多くは「医療者への苦情」

◆医療不信の原因

対応がいい加減

話や思いを聞いてくれない

説明不足

暴言やプライバシーの侵害

納得できない結果になった

患者と医療者の深い河・異文化圏

コミュニケーション
 話を聴く・思いを伝える

提供側

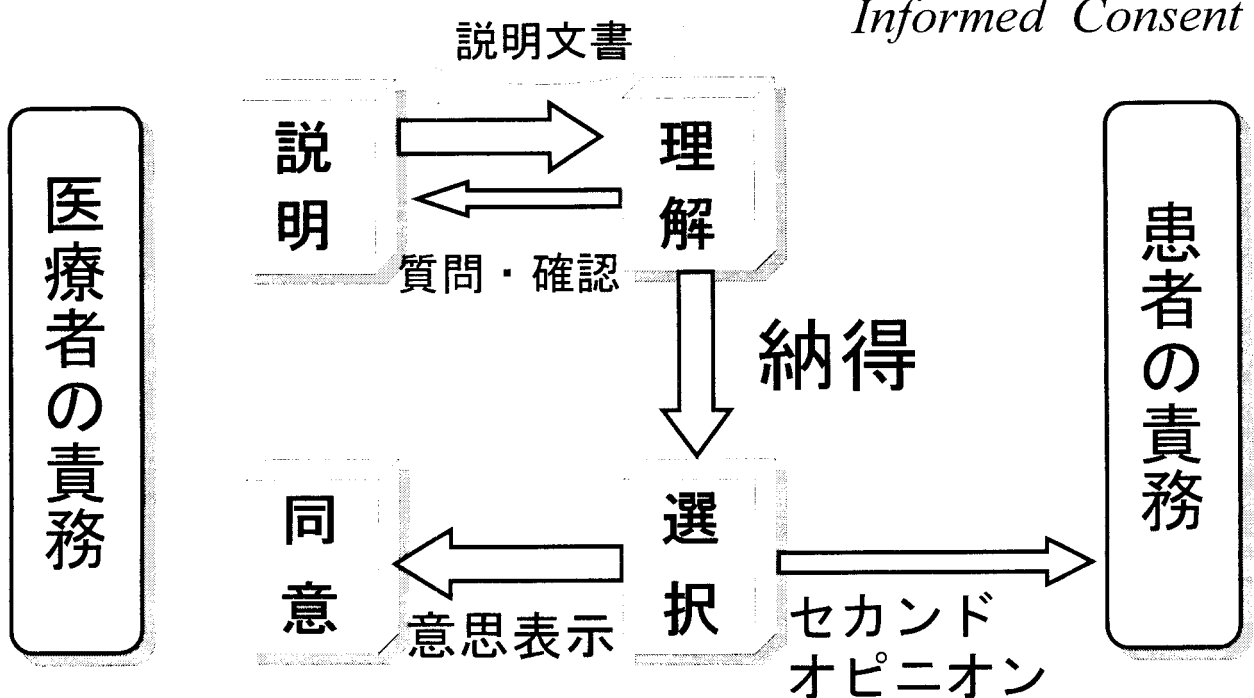
求める側

日常 非日常
 経験 体験
 診る・見る 感じる
 不特定多数 個別性

9

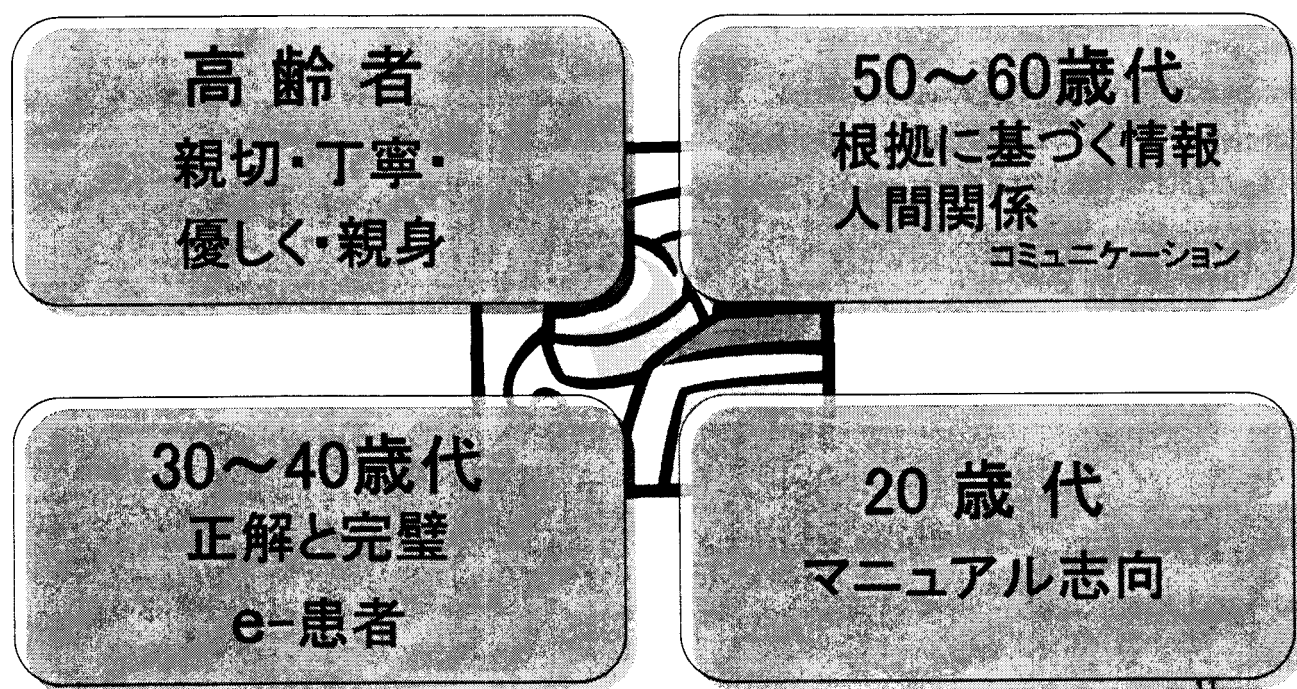
インフォームド・コンセント

Informed Consent



10

電話相談ニーズの世代間格差



「とても良い病院だったんですヨ」
夫を看取った妻のことは

- 1 ホスピタリティ(親切なもてなし)
*サービス(慎んで仕えること)
- 2 わかりやすい説明
- 3 話を聴いてくれた